

学校教育目標	1	進取の気性に富み、豊かな心と健やかな身体を持った人間を育成する。	今年度の重点目標 ① ICTの活用と、主体的・対話的で深い学びの推進により、思考力・判断力・表現力の育成を図る。 ② 実社会や実生活の課題を、教科横断的・協働的に行う探究活動を通じて、汎用的な学力の育成を図る。 ③ 地域の課題と国際的な課題を関連付けて考察し、幅広い視野の育成を図る。 ④ クラブや学校行事などの充実を図り、より良い人間関係を構築し、自主的・実践的な態度を育てる。 ⑤ 多様な他者を受け入れ、互いを尊重する豊かな心を育み、いじめのない安心安全な学校づくりを目指す。
	2	真理を深く追求し、豊かな創造力と力強い実践力を持った人間を育成する。	
	3	国際的な視野を持ち、地域の産業や文化を理解するとともに、その将来を担う人間を育成する。	

① ICTの活用と、主体的・対話的で深い学びの推進により、思考力・判断力・表現力の育成を図る。		達成状況と達成度 100% : A 80% : B 50% : C 30% : D 20%未満 : E		
具体的目標	評価項目	評価項目達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
【3学年】・生徒の学校生活、学習活動、進路希望等を情報機器も活用し、生徒に関する情報収集を効率的に行い、効果的に活用する。	【3学年】・生徒への支援、指導に有効に活用できたか。	面談時、授業時に活用した。	B	3年教室にも1.2年同様の設備があることが望ましい
【教務】・ICTの活用、 <i>アクティブ・ラーニング</i> の推進を図るために、公開授業を行う。	【教務】・ICT関連のアンケート調査などで、授業改善に繋がれたか。	アンケートを実施して、ICT機器の活用状況やアクティブラーニングを取り入れた授業を把握した。	B	このアンケートをもとに、授業改善につなげていく。
・研究授業を実施し、授業改善を図る。				
【進路】・ICTを用いて進路情報を随時提供する。	【進路】・内容や頻度等に関して、アンケート調査等で評価。	クラッシーの有効な利用ができた	B	
・各種調査の集計や、学力の分析に役立てる。		民間業者の資料の分析を行った	B	機器の機能の向上
・入学願書の申し込みに際してのアドバイスをする。		進学就職の申し込みに必要な場合があった	B	
【学習】・土曜補習でもICTを活用した授業展開ができるよう教室配置や講座割りを工夫する。	【学習】・ICTを活用した補習が実現できたか。	【学習】・一部の教科ではあるが、ICTを活用した補習が実現できた。	B	教室でのICTに関心が向いているが、視聴覚室の視聴覚機器の活用も重要である。視聴覚室の暗幕はぼろぼろ、暖房は老朽化して故障という状況を改善してほしい。
【図書館】・ICTを用いて図書情報を随時提供する。	【図書館】・ICTを用いて、的確に魅力的で有効な図書情報を提供することできたか。	・図書館のオリエンテーション等で図書の情報を提供できた。 ・授業の場として積極的に利用してもらった。	B	・時期的な偏りや利用教科の偏りができるだけないようにしたい。
【国語】・双方向的な授業の構築のために、ICTを活用し、生徒の意見集約や気づきなど、授業改善をはかる。	【国語】・具体的な活用方法を見いだすことができたか、またそれにより生徒の授業評価が向上したか。	生徒の意見集約に関し、有効な活用方法を検討することが出来た。	B	肯定的な評価が多かったが、評価の向上とICTの明確な関係までは考察できなかった。次年度引き続き改善を図りたい。
【数学】・ICTの活用	【数学】・ICTを利用して、分かり易い授業、学習の効率化、校務の効率化ができたか。	ICTを使って授業、成績処理等を効果的に利用した。 Studyaid D.B.で生徒にプリントを配信した。	B	Studyaid D.B.で効果的なプリント配信を研究する。
【社会】・動画や画像、地図や実物投影など資料の見せ方に加えて、より深く考えさせる手段としてICT機器を活用する。	【社会】・どのような場面でICTを活用することが効果的であるかを検証する。	資料の投影や動画、PP、xsyncなど、各単元ごとに効果的なICTを利用することができた。	B	ICT機器が不足しているので、次年度は需用費などで増やしたい。
・科目ごとに主体的・対話的で深い学びにつながる <i>アクティブ・ラーニング</i> をできる範囲で工夫する。	・科目ごとにどんな <i>アクティブ・ラーニング</i> を行えたか。	ベアラナ、グループディスカッション、メモリーウォー、企業研究など、各科目ごとにできる範囲で実施した。	B	次年度も引き続き、可能な範囲で実施する。
【理科】・生徒が主体的に学び、科学的に物事を見る力を養うために、ICTを活用し、 <i>アクティブ・ラーニング</i> を行う。	【理科】・実験の中で、予想・実行・考察・まとめなど生徒が主体的に取り組んだレポートに記入させる（ <i>アクティブ・ラーニング</i> ）。	何度か実験の結果から考察させ、発表する時間を作った。	B	少しでも実施していく事が大切。
・通常授業では、ICTにより図や動画を効果的に提示する。	・ICTを活用して効果的な授業ができたか検証する。	全員が活用し授業した。実験動画など、効果的に使えた。	B	プロジェクターの色が褪せてきているので、変えていただかないと、効果的な授業はできない。
・入試に向けた演習では効果的に進めるためにICT機器を活用する。		演習の解説などを、板書でない形で行う事で、生徒の方を見る時間が増えた。	B	続けることが大切だ。
【英語】・ICT機器の授業での使用について研究を進める。	【英語】・ICT機器の使用について研究を進めることができたか。	完全に満足とは言えないながらも、ある程度研究を進めることができた。	B	来年度も引き続き研究を深めたい。
【体育】・ICTの活用をし、活発な授業展開を図る。（運動を映像で分析するなど。）	【体育】・ICTを利用して自分の身体の動きを理解できたか。	体育の場面ではなかなか活用することはできなかった。	C	実技でどれだけ活用できるか研究を深めたい。
【家庭】・ICTを活用し生徒の興味関心に即した授業を行う。	【家庭】・ICTを活用して効果的な授業ができたか。	動画を使うことで講義とは違う面から考えさせる時間がとれた。	B	動画だけではなく他の方法も取り入れていく。
【美術】・ICT機器を活用し、生徒の関心や技能の向上を図る。	【美術】・ICT機器を利用して技法の習得ができたか。	主に書画カメラで手元を映すことで、効果的に技法を生徒に提示することができた。	B	技法の提示だけではなく、生徒の興味や関心を引きつける作家や作品の紹介なども、引き続き続けていく。

② 実社会や実生活の課題を、教科横断的・協働的に行う探究活動を通して、汎用的な学力の育成を図る。				
	具体的目標	評価項目	評価項目達成状況	達成度 次年度への課題と改善策
	【1学年】・全校登山、アジアフ運動について、SDGSに沿った観点から改善点、改良点を発見させる。 ・2つの活動以外にも地域の問題に関して上記の観点から問題点、改良点を発見させる。 【学習】・シラバスの作成を早めに行い、生徒がすべての教科を見渡した広い視野を持って学習に取り組める手助けをする。 【体育】・自らの健康問題に興味をもち、実践できるようにする。	【1学年】テーマ設定から発表に至るまでの効果的な支援が行えたか。 【学習】・シラバスを例年より早く作成できたか。 【体育】・健康目標を立てて実践できたか。	9割以上の生徒が全校登山、アジアフの活動に参加した。 例年より投げかけを早くして、作業に取り組んでいる。 現代の健康問題と向き合いそれぞれの課題に取り組むことができた。	B 目標に沿った改善点を、改良点を示すまでには至らなかった。 B 投げかけが早すぎた。投げかけから完成までの期間を短縮する工夫をしてほしい。 B 引き続き行いたい。

③ 地域の課題と国際的な課題を関連付けて考察し、幅広い視野の育成を図る。					
	具体的目標	評価項目	評価項目達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
	【1学年】・全校登山やアジア運動への参加を通して、地域の自然や産業に関し今後理想的な発展をするために自分たちのできることを考えさせる。	【1学年】・生徒が安心して意欲的に取り組めるような支援が行えたか。	地域の問題点を認識するための大町市との協働授業を行うことができた。	B	来年度に向けて具体的な問題点を洗い出せるかが今後の課題である。
	【2学年】・研修旅行において外国語研修を実施する。	【2学年】・学習の振り返りシートをもとにして、個々の取り組み評価に基づいて行う。	プログラム内容も適切で、各自英語を通じて「グローバル」を体感できた。	B	災害の影響もあったが、2日目の日程については時間的な部分において検討の余地有り。
	【3学年】・自分と社会との関わりを認識し、将来像を描いた進路目標を設定し、その実現に向けての実践を支援する。	【3学年】・高校生活を振り返っての生徒アンケートによる満足度に基づいて行う。	アンケート実施、集計後に検証したい		
	【英語】・英語学習が地域の課題・国際的な課題を理解するためのツールとなるように配慮する。 ・ALTと連携した授業により、身近な「グローバル」を体感させるとともに、英語の各技能の向上を図る。	【英語】・地域の課題と国際的な課題の関わりを生徒個々に理解させることができたか。	ALTとの連携により、身近な「グローバル」を体感させることができた。	B	地域の課題についてはさらに掘り下げて追求し、国際的な課題との関わりを探索させたい。
	【商業・情報】地域などの様々な課題を、生徒が主体的に仲間と協力しながら解決し、その発想を地域に活かすことで、社会への参画意識を高める。	【商業・情報】生徒が主体的に課題に取り組み、解決策を発想することができたか。	アイディアコンテスト・長野プロデュースコンテストの課題に取り組み、応募することができた。長野プロデュースコンテストでは、一名が一次審査を通過した。	B	時間的に厳しい部分があったので、来年度は早い段階から取り組みを始める。

④	クラブや学校行事などの充実を図り、より良い人間関係を構築し、自主的・実践的な態度を育てる。				
	具体的目標	評価項目	評価項目達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
	【1学年】・学校行事を尊重しながら他者と主体的、協働的に学ぶ姿勢を育む。	【1学年】・生徒同士がコミュニケーションを図りながら自主的に決定し活動できるような場面設定と支援ができたか。	岳嶺祭クラス展をはじめ、生徒がリーダーを中心に話し合い、自分たちで計画し実行していく機会をいくつか作るようにした。	B	生徒会引継に向けて、授業や生徒会活動、クラス内の活動でできるだけ生徒たちが他と関わりながら自主的に決定していく活動を増やしていく。
	【2学年】・スケジュール帳（スコラ）を活用することで、自己管理できる態度を身につける。	【2学年】・定期的なスケジュール帳の点検を行い、生徒各自の自己管理能力が定着するような支援を行うことができたか。	十分な点検の実施ができず、個々に活用の差が出ているが、自己管理の意識についてはある程度定着できている。	c	進路スケジュールやクラッシーとの併用でより充実した活用ができるように研修会を実施する。
	【3学年】・文化祭をはじめとする生徒会活動諸行事やクラブ活動において中心的存在としてその運営にあたり、それぞれの目標と達成に努める。	【3学年】・高校生活を振り返っての生徒アンケートによる満足度に基づいて行う。	アンケート実施、集計後に検証したい		
	【教務】・学校行事などをできるだけタイムリーに、Webページや情報配信システムを利用して外部や保護者に発信する。	【教務】・Webページの更新や情報配信システムによる配信を増やすことができたか。	昨年度よりは更新・配信を増やすことができた。 Webページ更新回数 平成30年度 18回 令和元年度 32回 情報配信 平成30年度 32回 令和元年度 43回	B	来年度はさらに他の係や学年などと連携を図り、タイムリーな更新・配信を目指す。
	【生徒会】・文化祭・クラスマッチを企画運営することで、他者への理解を深め、主体的に活動できる生徒を育てる。	【生徒会】・学校行事の計画・運営が生徒自身の手でできるように支援できたか。	3年生になるとクラスマッチ等の運営はできるようになった。	B	文化祭等の計画を自主的にくみ上げる力をつけていきたい。
	【清掃美化】・生徒一人一人が環境への理解を深め、公共物を大切にし、日々の清掃を積極的に行うような心を育む。	【清掃美化】・ゴミの分別ができているか、清掃の場面で生徒同士の協力を支援できたか。	ゴミの分別はしっかりできていた。清掃便りなどで清掃への協力の呼びかけができた。	B	清掃時間中の携帯使用に関してより呼びかけを徹底していきたい。
	【保健】・自他を大切にし、主体的に健康的な生活を送ることができる生徒を育む。	【保健】・健康診断、行事毎の健康相談等を通して生徒の気づきに治い、支援できたか。	色々な機会を通して、概ね出来た。	B	引き続き関係作りを大事に、育んでいきたい。
	【図書館】・読書週間などの行事を通して、知識・教養を深め、人間形成、よりよい人間関係の構築を図る。	【図書館】・各図書館行事の計画・運営を生徒自身が主体的にできるように、助言、支援することができたか。	概ね、助言、支援することができた。	B	前年度踏襲といった傾向が否めない、もう少し、積極的な発想ができるように働きかけた。
	【体育】・クラスマッチなど体育的学校行事で安全に活発に活動し、仲間との交流を図る。	【体育】・フェアプレーの精神で出来ていたか。参加者全員が気持ちよくゲームを楽しむことが出来たか。	体育理論とも関連づけて学びを深めることができた。	A	さらに仲間と深く関わりをもてるように工夫をした。

⑤	多様な他者を受け入れ、互いを尊重する豊かな心を育み、いじめのない安心安全な学校づくりを目指す。				
	具体的目標	評価項目	評価項目達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
	【1学年】・ICT機器の正しい使い方を指導し、他者を思いやりながら情報を発信したり、情報を俯瞰できる心の豊かさを育成する。	【1学年】・講演会の実施による啓発に加えて、日頃から生徒同士が認め合い支え合う場面をつくり指導することができたか。	2回の講演会を行い、いじめ防止とICT機器の正しい利用の啓発を行った。	B	普段の学校生活の中でも日頃からできるだけ多くの機会に継続して啓発を行う。
	【2学年】・生徒の様子に注視し、個人面談等の実施により問題の早期発見と対応を行う。	【2学年】・年2回の個人面談と高校生活を振り返ってのアンケート結果に基づいて行う。	調査結果をもとに面談等を実施	B	問題を抱えた生徒の早期発見のためにも引き続き実施する。
	【3学年】・異なる進路目標をもつ他者も尊重しながら、それぞれの進路実現に向け鍛え合い、励まし合う集団を形成する。	【3学年】・高校生活を振り返っての生徒アンケートによる満足度に基づいて行う。	アンケート実施、集計後に検証したい		
	【生徒指導係】・生徒の状況をきめ細やかに把握して対処する。また、学校生活の中で幅広く人権問題をあつかい、他者を思いやる姿勢を育てる。	【生徒指導係】・学校生活アンケートや学級担任による個人面談を実施して生徒の状況を把握することができたか。また、講演会や映画鑑賞、授業などを通して生徒の人権意識を涵養することができたか。	生徒の状況把握および生徒の人権意識の涵養について概ね達成できた。	B	アンケート実施後、懸念される回答があった生徒への早期の確認と対応の徹底。
	【渉外】・各家庭との連携を密にとる。	【渉外】・PTA総会や地区懇談会等における参加家庭の状況の把握。			
	【保健】・開放的な保健室運営をする。	【保健】・心身の健康課題の早期発見、早期対応ができたか。	開放的な保健室を目指し、概ね支援できた。	B	実態に沿った講話を計画したい。
	【体育】・実技を通して仲間を思いやる気持ちをもち。	【体育】・お互いに声を掛け合いながらチーム分けなど出来ていたか。困った事があった時、寄り添える事が出来ていたか。	生徒に寄り添う授業ができた。	A	引き続き生徒の様子を見ながら授業を進めていきたい。
	【音楽】・生徒個々に音楽表現に違いがあることに気づかせ、他者の音楽表現も取り入れながら共同し音楽を作り上げる。	【音楽】・講座全体や小グループの活動でお互いに聴き合い、音楽を作り上げることができたか。	パート練習を含むグループ活動を設定して取り組んだ。	B	お互いに合わせることはできたが、表現は消極的なものになってしまった。
	【書道】・他者の鑑賞や表現のしかたを取り入れるなど、自分と異なる意見と向き合い創作活動に生かす。	【書道】・相互の意見交換により、よりよい作品を創ることができたか。	各々の課題（作品制作）に取り組むことができた。	B	生徒が興味関心を持てる授業になるよう工夫していく。
	【教育サポート】・不登校や特別支援への理解を深まるために、職員研修を実施する。	【教育サポート】・不登校や特別支援への理解が深まったか。	インクルーシブ教育に関する職員研修を通じて、特別支援に対する理解が深めることができた。必要に応じて、SC、SSWと連携した指導により、手厚い支援ができた。また、予防的な支援は効果的であった。	B	引き続き、校内外の連携を大切にして、生徒の支援を行ってゆく。アンケート調査により、職員の希望を把握したうえで、校内研修などを行う。
	【いじめ防止】・いじめの無い、安心安全な学校生活を過ごせるよう、相談窓口の周知を行い相談しやすい環境づくりを進めるとともに、情報収集と、関係部署との連携した対応を行う。	【いじめ防止】・相談窓口の周知ができたか。迅速で適切な対応ができたか。	長期休業の前後などのタイミングで校内外の相談窓口を周知し、担任からの声掛けを行った。いじめアンケート結果に基づいて生徒への聞き取り、組織的な対策を行った。	B	生徒支援室に職員が常駐することで、相談しやすい環境づくりを目指す。保護者への連絡、連携を大切にする。

⑥	その他、上記にあてはまらないもの				
	具体的目標	評価項目	評価項目達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
	【体育】・常に新しい情報が得られるように好奇心を持って教材研究を行う。	【体育】・研修等積極的に参加する。	科内では多くの情報を共有しながら授業を行えた。外部の研修にはほとんど参加できなかった。	B	来年度は外部の研修会に積極的に参加できるようにしたい。
	【コンプライアンス委員会】・非遵行為防止に対する意識を高めるために、校内ルールの策定と職員研修を行う。	【コンプライアンス委員会】・校内ルールの策定、職員研修の実施ができたか。	非遵行為防止の校内ルールを策定し、意識の共有を図った。また、職員研修を実施し、事例検討を通じて、非遵行為防止に対する意識を高めた。本校の設立時の構想を踏まえつつ、今後のあるべき姿を見据えて3つの方針、グランドデザインの策定を進めた。また策定にあたり、生徒、保護者、職員、学校評議員の意見を取り入れてきた。	B	研修等と併せて、風通しのよい職場環境を心がけ、非遵行為防止への意識を高める。
	【ビジョン委員会】・3つの方針の策定を通じて、本校のあるべき姿を明確にし、魅力ある学校づくりを推進する。	【ビジョン委員会】・3つの方針の策定により、本校のあるべき姿を職員の共通認識とすることができたか。		B	3つの方針を、生徒、保護者、職員、地域で共有し、教育活動の充実を図る。